

令和2年度 文部科学省

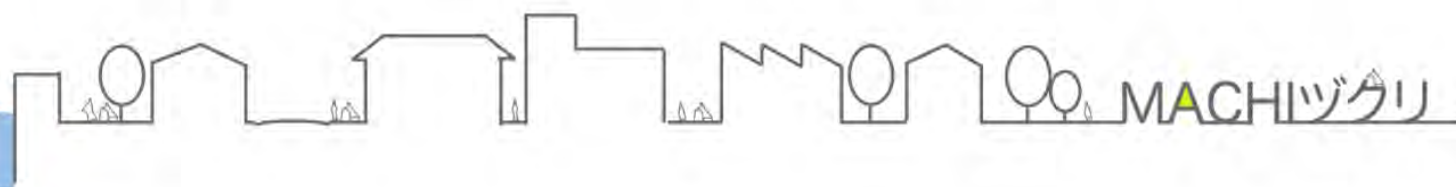
「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」  
まちづくりファシリテーター養成講座

事業概要

令和3(2021)年3月

JCAABE

一般社団法人 日本建築まちづくり適正支援機構



## 〇はじめに

当報告書は、2019年度文部科学省「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」に一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構が応募し、審査を経て委託された「まちづくりファシリテーター養成講座」の2年間事業の成果をまとめたものである。

まちづくりにおいて住民と行政と専門家の関係はとても大切であり、その関係づくりの中で多様な声をまとめあげ推進する専門家として、建築系の「まちづくりファシリテーター」を養成する講座を実現すべく、その調査、分析、開発、実証するというプロセスを経て、具体的方法も含めた実効性ある内容を目指したものである。その構成として、1、事業概要として、当事業の全体像すなわち、なぜまちづくりファシリテーターが必要なのかという背景、養成するための枠組を明らかにし、2として2019年度の事業成果としての調査・分析からの教材作成及びプログラム、求められる人材像の明確化、3として2020年度事業成果としての、実証講座の実施とその分析、遠隔地授業を可能にするオンライン授業と対面授業の対応や動画教材作成などを含めた全体成果のまとめ、という構成である。

この事業には、協力校、建築家を含む専門家、研究者、行政の方、企業の方など様々な方の協力を経て、まとめあげられたものである。関係者ならびにご協力頂いたすべての方に感謝の意を表したい。この報告書を基に今後、まちづくりファシリテーター養成講座が実現し、拡がり展開できることを心から望み、また努力する所存である。

一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構 代表理事 連健夫

# □ 専修学校による地域産業中核的人材養成事業 『まちづくりファシリテーター養成講座』概要

## □ PROLOGUE : 社会的意義と目的

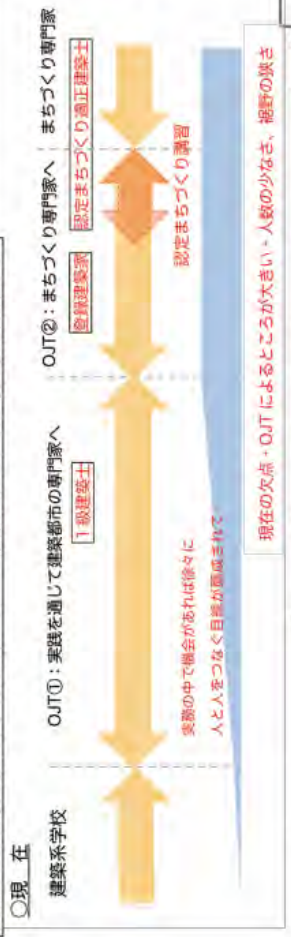
現在、地域における問題・課題として「空き家」「防災」「地域活性化」「福祉の充実」「人口減少」「担い手不足」などが存在している。それらを緊急的に解決、推進するためには、地域創生を含めたまちづくり活動が大切である。行政においては、空き家対策は緊急課題であり、地域住民と共に解決策を見出すことが求められている。これには建物だけではなく資金調達や運営、活性化といったエリアマネジメントを含めた総合的な知識が必要である。まちづくりにには、多様な立場の人が関わるため合意形成には専門的手法が必要となり、それを推進するためのファシリテーターが必要であるが、それを担う人材が不足しているのが現状である。本事業では、専修学校の建築系コースにおいて建築をベースにした専門家を輩出することを目的とした「まちづくりファシリテーター養成講座」の開発を行う。本事業の成果については、将来的に専修学校生だけでなく大学生および実務者も受講可能とすることで、幅広い教育としての活用も想定する。また、講座にて、まちづくり活動の現場で受講者が体験学習を行うことでより効果的な講座運営をはかる。

「空き家問題」「木密地域に代表される地域防災の問題」「地域商店街の活性化」「進まない古い集合住宅の再生」..ETC



まちづくりファシリテーター養成講座→広く人材を育成する流れを作ることが目的

## □ まちづくり専門家のキャリアストーリー：未来のまちづくり専門家の育成モデル



## □ 実施体制 (連携体制)

- 提案者、管理、運営、事務局 (職能団体): 主提案代表者として全体を含め委員会運営、教材開発、事務局機能など
- 一般社団法人日本まちづくり適正支援機構 (JCAABE)
- 協力教育機関: 委員会への有識者の派遣、委員会会場の提供、教材の開発実践授業の実施
- 日本工学院専門学校 (東京都大田区)
- 麻生建築&デザイン専門学校 (福岡市博多区)
- 新潟工業専門学校 (新潟市中央区)
- 協力企業: 委員会含め協力など
- 一般社団法人日本住宅環境保護機構
- 一般社団法人住宅建築コーディネーター協会
- 一般社団法人日本環境保護機構
- 一般社団法人不動産仲載機構
- 一般社団法人チームまちづくり
- パナソニックホームズ株式会社
- 大東建託株式会社
- NPO 法人モクチン企画
- 株式会社アットカマタ
- 行政 (協力教育機関の所在地により今後選定): 実証講座まちづくりインテナーシップなどにて協力予定
- ①東京都大田区 (都庁型まちづくり) ②福岡市博多区 (地方都市型まちづくり) ③新潟市中央区 (地方都市型まちづくり)

## □ 事業計画案: 1.5年計画案



## □ 本事業の特徴

1. まちづくりファシリテーター養成講座 (30 コマ) の受講修了者は、「まちづくりファシリテーター養成講座修了証」を取得し、2年の実務 (勤務経験) を経て、JCAABE に登録すると、「登録まちづくりファシリテーター」となる。
2. 「登録まちづくりファシリテーター」は最上位のまちづくり資格「認定まちづくり適正建築士」取得に際し、1級建築士取得後すぐに登録可能となる。
3. JCAABE に登録されることにより、HP おいて登録者情報提供と共に、より高度なまちづくり専門家との連携が可能になる。
4. まちづくりコミュニケーション能力により、まちづくりの専門家としてのOJTの質の向上が期待できる。
5. まちづくりファシリテーターとして、地域と行政と専門家を繋ぐ役割を担うことができる。
6. まちづくり専門家の増加、最上位の専門家からエキスパート予備軍までピラミッド型人材構成への道筋ができる。

## ○ 本事業後: まちづくりファシリテーター養成講座導入後



# 専修学校による地域産業中核的人材養成事業 『まちづくりファシリテーター 2019年度 事業成果概要シート』

**S** Social demands: 社会的要求  
 現在、これまで、建築・まちづくりの分野から時代的要求として「まちづくりファシリテーター」への期待と高まりは芽生えている

**調査から**  
 学校・学生・行政・企業  
 「まちづくりファシリテーター」は必要である！  
 一方  
 新しい概念、職能  
 →理解しやすさ・社会・学生へのアピールが必要！

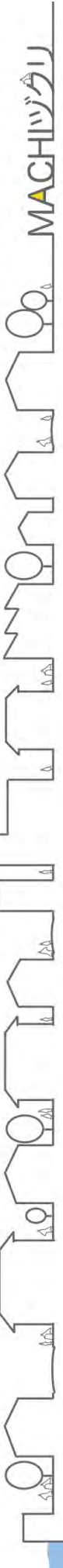
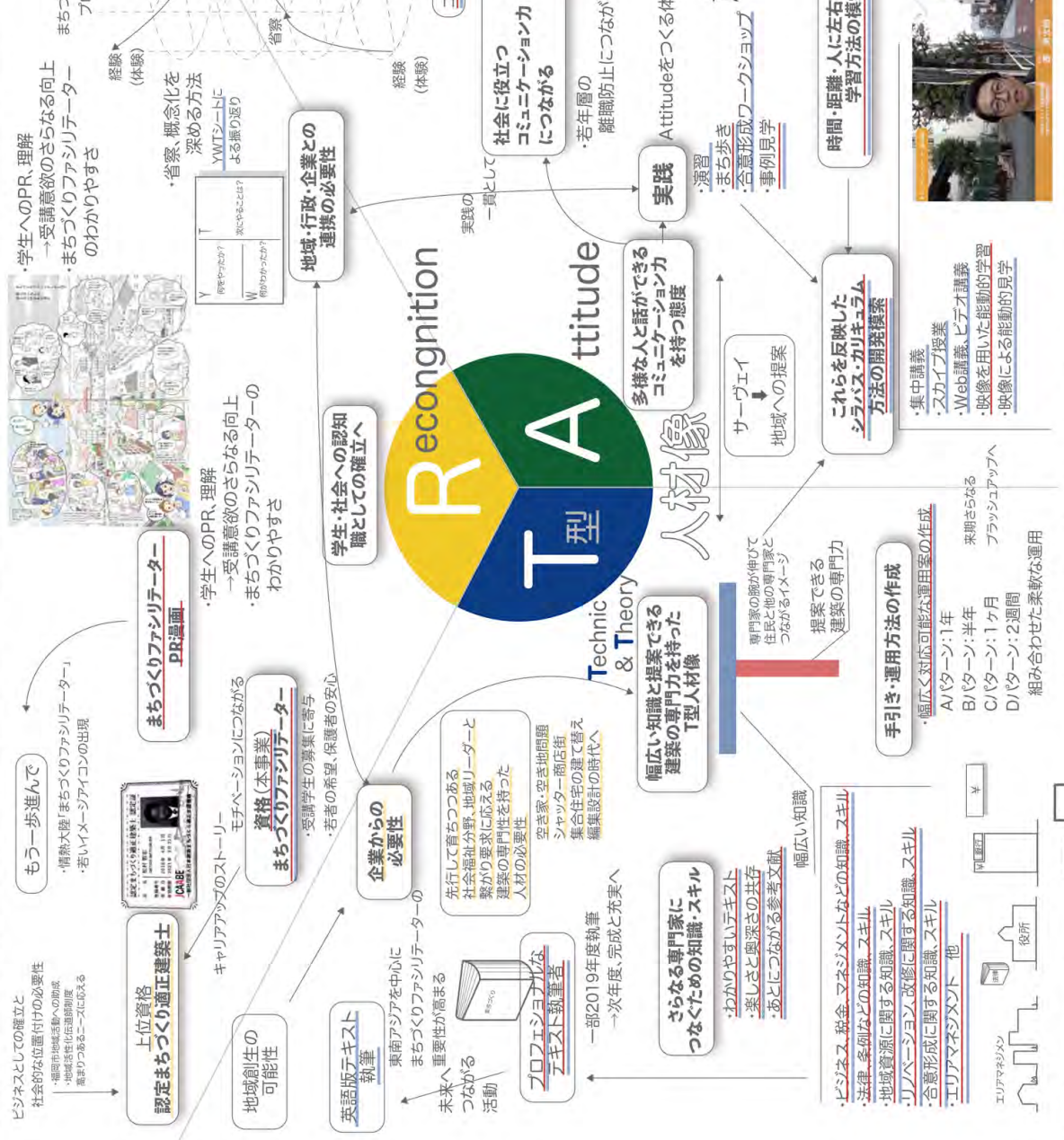
**3** 本の柱: 事業を支える三つの方向性

**T** Technic & Theory  
**型人材像: 目的を持ったコミュニケーション力**  
 ○幅広い知識と提案できる建築の専門力  
 ○ビジネスから法律等に至る幅広い内容  
 ○プロフェッショナルなテキスト執筆者  
 ○わかりやすいテキスト構成、幅広く深い参考文献  
 ○提案できるコミュニケーション力  
 ○さらなる専門家につなぐ能力  
 ○先行して育ちつつある社会福祉分野  
 ○地域リーダーと繋がり、要求に応える  
 ○建築の専門性を持った人材へ  
 幅広い知識  
 提案できる  
 建築の専門力

**A** Attitude: 素養 (態度 + 知識・スキル) の育成  
 ○多様な人と話ができるコミュニケーション力を持った態度  
 ○Attitude (態度) を養成する実践 (体験学習・経験学習)  
 →実践・見学・まち歩き・合意形成ワークショップ・演習  
 『時間・距離・人』に左右されない学習』方法の構築  
 →集中講義・スクリーン、web授業、映像を用いた能動的学習  
 を取り入れて全国で行える方法を構築、開発  
 →手引き・運用方法の作成、シラバスの充実  
 ○実践: 地域行政・企業との連携を構築、手がかりきつかけを作る  
 →一歩一歩、地域の声に応える実践の導入へのきつかけづくり

**R** Reconnection: 社会認知と考え方のイノベーション  
 ○学生・社会への認知、職としての確立へ  
 ○若者から一般の人まで、理解できるツールの開発  
 →「まちづくりファシリテーターPR漫画」作成→学生の理解  
 企業・行政・地域との連携を視野に入れて説明できるツール  
 ○新設資格から既存上位資格へのキャリアストーリー  
 →受講のモチベーションとキャリアの明確化  
 ○未来へ→社会・海外へのアピール: 英語版テキスト

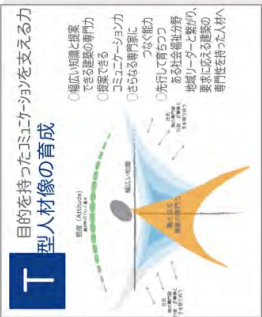
Mapping: まちづくりファシリテーター養成講座事業マップ핑 ※2019年度調査・委員会での内容を反映。(今後に向けた課題、未来へ繋がる内容も含む)



サーヴェイ

**「まちづくりファシリテーター」は必要である!**

- 学校・学生・行政・企業「まちづくりファシリテーター」は必要である!
- 企業・行政スタートのまちづくりから住民・市民・スタートのまちづくりへのパラダイムシフト
- まちづくりの中心となる地域住民・市民の増加
- 地域住民・市民と協働することができる
- 建築をベースにした専門家のニーズの高まり
- 行政による住民主体のまちづくり・地域づくりの支援制度の拡充



**A Attitude**

素養(態度+知識・スキル)の育成

- 多様な人と話ができるコミュニケーション力
- 「時間・距離・人」に左右されない学習方法の構築
- 「時間・距離・人」に左右されない学習方法の構築
- 「時間・距離・人」に左右されない学習方法の構築
- 「時間・距離・人」に左右されない学習方法の構築

**R eognition**

社会認知と考案のイノベーション

- 受講生が理解できるツールの開発
- イメージで理解
- 挿絵やイラスト
- 新設資格から既存上位資格へキャリアストーリー
- 受講のモチベーションとキャリアの明確化

**時間** 左右されない

**学習方法の模索**

**距離** 集中講義

**人** スカイプ授業

- ・Web講義、ビデオ講義
- ・映像を用いた能動的学習
- ・映像による能動的学習

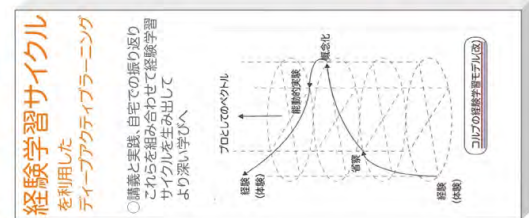
**シラバス**

○幅広い分野(総合、都市計画、建築、デザイン、合意形成ワークショップ、不動産・経営、税金・修繕・防災・エネルギー)を網羅

○全体の半分に実習を導入

講義15コマ、実習15コマ

科目	単位数	履修 要件
1. 総合入門	1	なし
2. 都市計画	1	なし
3. 建築	1	なし
4. デザイン	1	なし
5. ワークショップ	1	なし
6. 不動産・経営	1	なし
7. 税金・修繕	1	なし
8. 防災	1	なし
9. エネルギー	1	なし
10. 総合実践	1	なし
11. 総合実践	1	なし
12. 総合実践	1	なし
13. 総合実践	1	なし
14. 総合実践	1	なし
15. 総合実践	1	なし



**第一線で テキスト**

活躍する 実践者・研究者が執筆した

**動画教材**

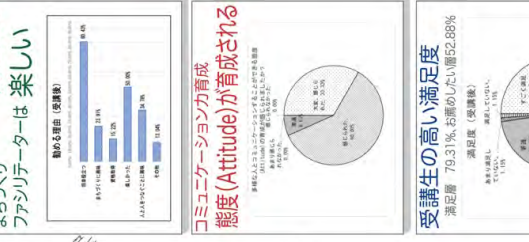
専門知識、わかりやすい

**イラスト**

ビジュアルでわかりやすい

**反転授業**

動画講義をより深い学習へ



**実践:事例見学**

講師と一緒に見学しているようなインタビュースタッフに

**実践:演習**

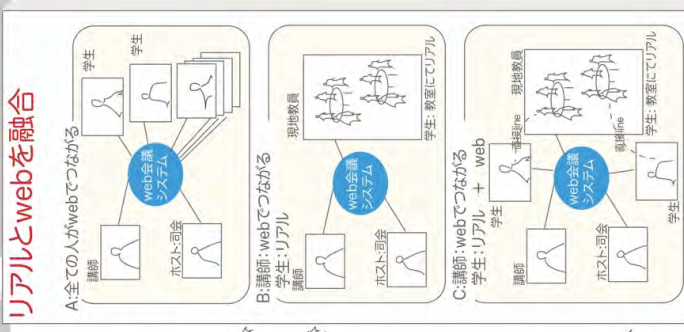
本場の現場に実践的に取り組む

**実践:合意形成WS**

コミュニケーションが身につく

**実践:まち歩き**

フィールドワーク



**一歩進んだ 広報の必要性**

企業・行政・地域との連携を強固に

説明できるツール

→一般やパンフレットなど

→映像やパンフレットなど

→一般の力を広くアピールするためのツールの必要性

・未来へ社会・海外へのアピール

・英語版テキスト

**まちづくりの実践へ**

実践者・研究者が執筆した

実践者・研究者が執筆した

実践者・研究者が執筆した

**検証委員自由記述より**

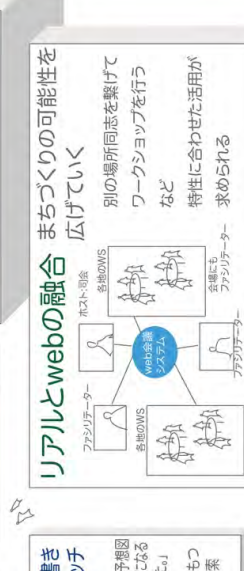
「実際にまちづくりファシリテーターとして活躍するためには、利害関係の発生する住民の方々や行政、企業等々との調整力や交渉力をいかにして身につけていくかが今後の課題だと思います。」

**住民の意見を 引き出す イラスト・スッチ**

検証委員自由記述より

「リターン化された言いにくい状況や手書きの絵の力を感じました。」

Webで同等の効果をもち 作品制作の方策も提案



開発・実証





# 目 次

## 第1部 事業概要

Ex はじめに・概要・まとめ	……Ex 1
□広報資料 概要 1 事業概要 まとめ	……Ex 2
□広報資料 概要 2 2019年度事業成果 まとめ	……Ex 3
□広報資料 概要 3 2020年度事業成果 まとめ	……Ex 4
1-1 事業の背景・趣旨・目的	…… 3
1-1-1 事業の背景	…… 4
1-1-2 事業の趣旨・目的	…… 7
1-2 事業推進の流れ	…… 9
1-2-1 本事業の取り組み概要とスケジュール	……10
(1) 開発する教育カリキュラム・プログラムの概要	……10
(2) 具体的な取組	……13
(3) 今年度の具体的活動	……14
1-2-2 事業体制と委員会構成	……15
(1) 事業体制のイメージ	……16
(2) 構成機関等	……17
(3) 各機関の役割・協力事項について	……17
(4) 効果普及想定地域	……18
(5) 事業を推進する上で設置する会議	……19
(6) 開発に際して実施する実証講座の概要	……22
(7) 開発する教育カリキュラム・プログラムの検証	……24
(8) 事業実施に伴うアウトプット（成果物）	……25
(9) 本事業終了後※の成果の活用方針・手法	……26
1-3 実施委員会の開催実績	……27
1-3-1 第一回合同委員会（実施員会+開発分科会+実証分科会） /2020年7月22日	……28
1-3-2 第二回開発分科会/2020年9月17日	……31
1-3-3 第二回合同委員会/2020年9月17日	……33
1-3-4 第三回実証分科会/2020年12月10日	……36
1-3-5 第三回合同委員会/2020年12月10日	……38
1-3-6 第四回実証分科会/2021年2月15日	……41
1-3-7 第四回合同委員会/2021年2月15日	……44





1-1  
事業の背景  
趣旨・目的

## 【1-1 事業の背景・趣旨・目的】

### 1-1-1 事業の背景

「まちづくりファシリテーターが必要な社会的背景（建築とまちづくり）」  
空き家が800万戸を越え、全国平均で住宅戸数の13.5%を占めるという状況がある。新築需要が減り、既存建物を改修して使用するというリノベーションの需要が伸びている。既存建物の利用を捉えた場合は、様々な方法を複合的に扱うことになる。また周囲の建物も含めた景観や街との関係性に対する配慮が求められる。つまり、建築とまちづくりとの関係性が生じてくるのである。また、既存建物の利用は、現物があるだけに施主が計画内容を理解しやすい状況にあり、設計プロセスに施主が参加しやすくなる。この参加型のデザインにより、専門家としての設計者と一般人である施主とがコラボレーションしやすい環境が生まれ、より使いやすく質の高い建築を生み出すことが可能となる。街づくりにおいては、1992年の新都市計画法により、住民参加が奨励され、都市マスタープランが作られるなど、住民参加の中でまちづくりが行われることが主流になっている。つまり、利用者参加のデザインは、建築とまちづくりにおいて関係しながら同時進行している状況である。まちづくりにおける地域課題として中心市街地の活性化がある。東京都大田区では中心商店街の空き店舗問題、零細企業の衰退における空き工場問題があり、それらをエリアマネジメントの視点で総合的に活性化することが求められている。

([http://www.city.ota.tokyo.jp/sangyo/syogyo\\_sangyo/syoutengai-kasseika-menu.html](http://www.city.ota.tokyo.jp/sangyo/syogyo_sangyo/syoutengai-kasseika-menu.html))

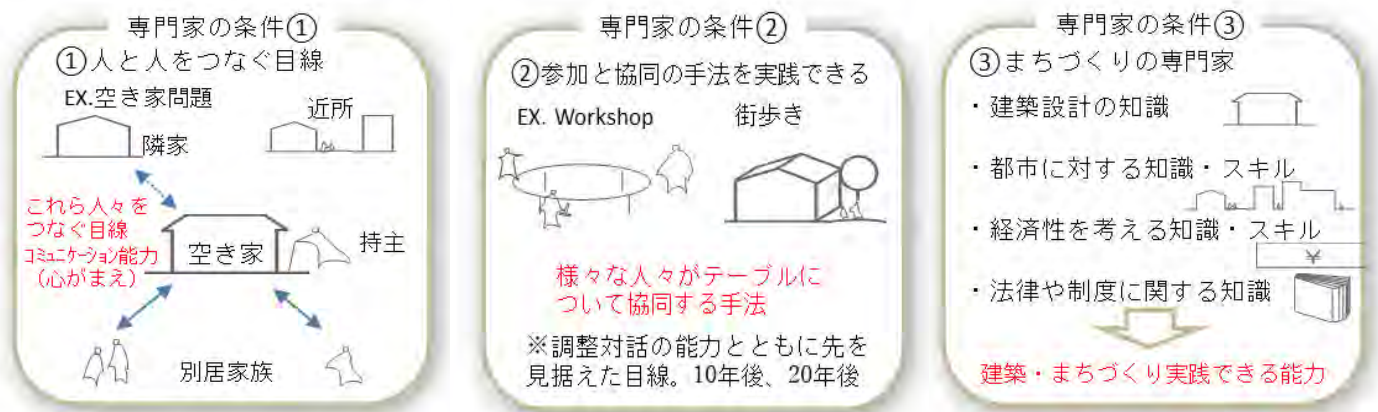
#### ■参加型デザインに必要なまちづくりファシリテーター

参加型デザインと住民参加のまちづくりにおいて、「まちづくりファシリテーター」という専門家が必要になってくる。これは、施主と設計、住民と行政を繋ぐ専門家である。現行の建築基準法は面積や高さといった数量的な規制や判断であり、そこには「良質や美しい、〇〇らしさ」といった定性的判断は含まれておらず、どこに行っても同じ街並みを作っている現状がある。この定性的な判断を入れる方法として協議調整（デザインレビュー）があるが、それを何らかの形で現状の制度・仕組みの中に取り入れる必要があるとされている。例えば景観法におけるデザイン審査、まちづくり条例における認定まちづくり協議会での建築計画事前説明などがある。この協議調整は、計画側と住民との間に入って調停の役割を担う専門家として、まちづくりファシリテーターが必要とされるのである。

従来、この役割を行政担当者やコンサルタントが担っていたが、体系的な学びの場がなく、当事業を通して、その仕組みを作る。

## ■人と人を繋げるまちづくりファシリテーターの役割

まちづくりファシリテーターの役割は、施主や市民など一般人に対して、行政や専門家の言葉を分かりやすく説明することである。また施主や市民のつぶやきや未整理な言葉に、意味を見出し、分かりやすくまとめる力や機能との協働が求められる場面において、うまくコミュニケーションができる力が必要とされる。この協働性について、何か専門性を持っていないと他の機能と繋がるのが難しいという状況がある。つまり T 字型専門性である。1 つの専門性を持った上で、他の機能と繋がる事が出来る幅広い知識やコミュニケーション能力である。建築やまちづくりを扱う上で、建築の専門性は極めて有効であり、建築の専門性に上乘せする形でまちづくりファシリテーターのスキルを持つ人材が、この養成講座の主要コンセプトである。



## ■高等教育機関の人材育成における社会的ニーズ

専修学校や大学という高等教育機関における学生資質の問題として、コミュニケーション能力の不足、がある。これは近代化、核家族化、情報化などの社会変化の中で、人と関わる機会が少なくなったことが原因と言われている。更に 1995 年問題（ウィンドウズ95、インターネット元年）と言われる WEB 社会という現実から離れた仮想現実問題や、SNS 等におけるマニユアックな小コミュニティ問題が生じている。核家族社会において親の忙しさから子供とのコミュニケーションが少なくなる中で、人と関わる機会が極端に少ない家庭環境の中で、人と人を繋ぐ能力が育たぬまま社会に出ている状況が生じている。まちづくりファシリテーターは、人と人を繋ぐ専門家であり、コミュニケーションスキルを扱う職能である。この養成講座を経た人材は、建築やまちづくりに貢献することのみならず、あらゆる職種においても役立つことが期待される。折れやすい人間、挨拶ができない人間、自分の立場が分かっていない人間、人とコミュニケーションが取れずに引きこもってしまう人間、など現代社会が抱える問題を解決出来るコミュニケーション能力のある人間、換言すれば人間力を育てる講座とも言える。

## ■専修学校の特徴である専門性教育にコミュニケーション能力を付加する。

専修学校の多くは「資格」という専門性獲得が強みであるが、その専門性をベースにして、他の専門家と繋がるというコラボレーション能力が獲得できれば力強いアドバンテージとなる。まちづくりの現場では、建築のみならず、不動産や相続、経営など多様な専門性が求められる。これらすべての専門性を持つことは不可能であり、それぞれの専門家と協働し、エリアマネジメントの視点でまちづくりをすることになる。この意味で、建築の専門性をベースにしたまちづくりファシリテーター講座はニーズが高いと言える。

## ■各専修学校の特徴を活かしたネットワーク型講座

専修学校の1つの課題として、学校間の協働性が弱いことがある。それぞれ学校経営という意味で、ライバル関係であるという側面はあるものの、各専修学校の特徴を活かしたネットワーク型の講座も必要である。つまり、社会ニーズの多様化に従って、各専修学校ごとに講座や設備を抱えるのは負担が大きく、不合理と言える。都市型の専修学校と地方型の専修専門学校のそれぞれの特徴を活かし、上手くネットワークを構築することにより、互換性のある弾力的な講座も可能である。この意味では、スカイクを含む最新情報化技術を用いての連携授業も、協働性を大切にする意味でまちづくりファシリテーター養成講座に馴染む教育システムである。

具体的には、都市型専門学校においては情報系やデザイン系コースを持っており、地方型専門学校には大工系、農業系コースを持っている。総合的解決や地域に応じた解決が求められるまちづくり活動において、それぞれのスキルをトータルに学ぶというネットワーク型授業において、多様で柔軟な講座が可能になる。当事業提案において、(一社)日本建築まちづくり適正支援機構が主体となりニュートラルな立ち位置で、協力3専修学校の特徴を活かしたネットワーク型授業をすることにより、汎用性の高い「まちづくりファシリテーター養成講座」となる。

## ■各専修学校と行政や地域産業との連携を活かし、膨らまし、広げる。

専修学校は行政(地方自治体)や地域産業との繋がりを持っており、それを膨らまし、広げることにより、当講座の内容に反映させることや、地域のまちづくり活動に活かすことが可能となる。日本工学院専門学校は、「大田まちづくり学」として、大田区長や防災まちづくり課の方から講演をいただいたり、大田区の企業や団体から講師を招いた特別講義や街に出て地域活動のお手伝いを実施している。大田区は木密地域の問題を抱えており、行政にとって不燃化、耐震化を進めることが課題となっていることから、住宅メーカーとの連携で不燃化住宅の提案などの活動をしている。これらの連携活動を活かし、膨らまし、広げることにより、まちづくりファシリテーター養成講座が、より実践的なものになる。

## 【1-2 事業の趣旨・目的】

現在、地域における問題・課題として「空き家」「防災」「地域活性化」「福祉の充実」「人口減少」「担い手不足」などが存在している。それらを総合的に解決、推進するためには、地域創生を含めたまちづくり活動が大切である。行政においては、空き家対策は緊急課題であり、地域住民と共に解決策を見出すことが求められている。これには建物だけではなく資金調達や運営、活性化といったエリアマネジメントを含めた総合的な知識が必要である。まちづくりには、多様な立場の人が関わるため合意形成には専門的手法が必要となり、それを推進するためのファシリテーターが必要であるが、それを担う人材が不足しているのが現状である。本事業では、専修学校の建築系コースにおいて建築をベースにした専門家を輩出することを目的とした「まちづくりファシリテーター養成講座」の開発を行う。本事業の成果については、将来的に専修学校生だけでなく大学生および実務者も受講可能とすることにより、幅広い教育としての活用も想定する。また、講座にて、まちづくり活動の現場で受講者が体験学習を行うことでより効果的な講座運営をはかる。

### <学習ターゲット>

専修学校の建築系コースに所属する学生とする。

### <目指すべき人材像>

建築をベースに、空き家活用やリノベーションなどの編集設計という今日的なスキルの専門性を有し、地域社会や多様な専門家と協働していく「まちづくりファシリテーター」



1-2  
事業推進  
の流れ



## 【1-2 事業推進の流れ】

### 1-2-1 本事業の取り組み概要とスケジュール

#### (1) 開発する教育カリキュラム・プログラムの概要

○名称 まちづくりファシリテーター養成講座

○内容 【まちづくりファシリテーター養成講座カリキュラム概要】

開発するまちづくりファシリテーター養成講座の教育カリキュラム・プログラムは、6つの分野領域を扱っている。前後期の30コマで構成され、この内10コマは実践講座となっているなど、体験学習を含めた特徴的カリキュラムである。

#### ① まちづくり関連分野・領域

総合、A：建築・デザイン B：都市計画、C：合意形成・ワークショップ、  
D：不動産・経営・税金、E：修復・防災・エネルギー

#### ② 時間数と履修

1年間、30コマ、1コマは1.5時間で前後期毎に考査を実施、考査をパスすれば、講座修了証書を発行する。受講生の希望により前後期別の履修証明書を発行することが可能。この講座は、今後、社会人にも開かれており、履修ブックを発行し、各講座の履修状況が分かるようにして、複数年で修了することを可能とする。

#### ③ 科目概要の特徴

上記シラバスの特徴は、理論と実践※にまたがる分野横断的カテゴリーであり、座学、演習、見学、参加体験で構成されている。また協力専修学校（都市型1校、地方型2校）の特徴を活かしたネットワーク型のカリキュラムとする。

<p><b>■総合</b> 1.まちづくりファシリテーターとは何か 28.まちづくりフィールドワーク①※ 29.まちづくりフィールドワーク②※ 30.まちづくりフィールドワーク③※</p>	<p><b>■B:都市計画</b> 2.都市計画における住民参加とファシリテーターの役割 3.まちづくりファシリテーターのコミュニケーション力 4.コミュニケーション技術演習※ 8.地域特性を活かす規制や法律 26.空き家空き地活用概論 27.事例見学※</p>	<p><b>■D:不動産・経営・税金</b> 22.建築と不動産 23.演習※ 24.今後の不動産業、宅建士の役割 25.演習※</p>
<p><b>■A:建築・デザイン</b> 12.建築設計における参加型のデザイン 13.参加型デザインによる事例見学 ※ 14.リノベーションまちづくり概論 15.リノベーション技術・実習 ※ 18.インスペクション・耐震化・不燃化概論 19.演習※</p>	<p><b>■C:合意形成・ワークショップ</b> 5.まちづくりの手法① 6.まちづくりの手法② 7.ワークショップ演習(KJ法・コージュ)※</p>	<p><b>■E:修復・防災・エネルギー</b> 9.事前復興まちづくり 10.事前復興まちづくり演習※ 11.建築・まちづくり事例講義 16.エネルギーとまちづくり 17.エネルギーとまちづくりの実践※ 20.保存・修復とまちづくり 21.修復事例見学※</p>
<p><b>■総合 実際のまちづくり活動等への体験学習(地域の実情で柔軟に設定) ※※</b></p>		

※は実践授業を想定する。

まちづくりファシリテーター養成講座の前期・後期におけるカリキュラム・シラバスを以下に示す。1コマ1.5時間で全30コマの合計45時間とする。各分野・領域ごとに座学で知識を得た後に、実践として演習・見学を位置づけ、理解しやすい構成としている

まちづくりファシリテーター養成講座カリキュラム・シラバス

前期	分野・領域	番号	実践	プログラム名	内容・狙い
15 コマ	総合	1		まちづくりファシリテーターとは何か	まちづくりファシリテーターの概要を理解する
	B、 都市計画	2		都市計画における住民参加とファシリテーターの役割	都市計画の歴史の中での住民参加、専門家、ファシリテーターの役割
		3		まちづくりファシリテーターのコミュニケーション力	まちづくりファシリテーターのコミュニケーションスキルと実践
		4	※ WS	コミュニケーション技術演習	ロールプレイやディベートを通してコミュニケーションのスキルを習得する
	C、 合意形成 ワークショップ	5		まちづくりの手法①	まちづくりの目的に応じた手法、参加対象や募集の方法、実践スケジュールの立て方を理解する
		6		まちづくりの手法②	まちづくりの具体的な手法を学ぶ、自己紹介、合意形成、街歩き、KJ法、コラージュの方法を理解する
		7	※ WS	ワークショップ演習（KJ法・コラージュ）	KJ法、コラージュを実際に行い、プロセスと留意点を学ぶ
	B、 都市計画	8		地域特性を活かす規制や法律	なぜまちづくりにルールが必要なのかを含め、地域特性を活かすルール、規制や法律、まちづくり条例について学ぶ
	E、 修復・防災・エネルギー	9		事前復興まちづくり	事前復興まちづくり訓練、防災やフェーズフリーデザインを理解する
		10	※ 演習	事前復興まちづくり演習	事前復興まちづくりワークショップの演習
		11		建築・まちづくり事例講義	建築とまちづくりとの関係を事例を通して学ぶ
	A、 建築 デザイン	12		建築設計における参加型のデザイン	建築設計における参加型の設計プロセスを事例を通して学ぶ
		13	※ 見学	参加型デザインによる 事例見学	参加型の設計プロセスによってできた事例を訪問、見学し、利用者へのヒアリングを含め、学ぶ
		14		リノベーションまちづくり概論	リノベーションとは何か？まちづくりとの関係、事例を通して学ぶ
		15	※ 見学	リノベーション事例見学	リノベーションの先進事例について見学を通して学ぶ

まちづくりファシリテーター養成講座カリキュラム・シラバス

後 期 15 コ マ	分野・領域	番号	実践	プログラム名	内容・狙い	
	E、 修復・防 災・エネル ギー	16		エネルギーとまちづく り	SDGsとまちづくりの関係、エネルギーとまちづく り、省エネ技術について学ぶ	
		17	※ 見学	エネルギーとまちづく りの実践	オフグリッドの実践事例を通して、エネルギーとま ちづくりを捉える	
	A、 建築 デザイン	18		インスペクション・耐 震化・不燃化概論	インスペクション、耐震化と不燃化の技術、方法、 助成制度の仕組みを、木造、RC造、S造の構造別に理 解する	
		19	※ 演習	演習	インスペクション、耐震化と不燃化の技術を用いた 演習を行う	
	E、 修復・防 災・エネル ギー	20		保存・修復とまちづく り	保存、修復とまちづくり、歴史的建築物と近代建築 の保存、指定・登録、利活用	
		21	※ 見学	修復事例見学	保存、修復事例を訪問、見学する。可能であれば関 係者からの説明を受け現状の課題を理解する	
	D、 不動産・ 経営・税金	22		建築と不動産	建築と不動産、経営、税金について理解する	
		23	※ 演習	演習	建築と不動産、経営等を捉えて、演習を行う	
		24		今後の不動産業、宅建 士の役割	今後の不動産業、宅建士の役割、マイナス不動産の 活用を学ぶ	
		25	※ 演習	演習	不動産業の初歩的実務の演習を行い、その特徴と留 意点を学ぶ	
	B、 都市計画	26		空き家空き地活用概論	空き家空き地の現状、問題点と課題、その解決策、 行政の対応や助成制度、担い手について学ぶ	
		27	※ 見学	事例見学	空き家空き地の活用事例の見学	
	総合	28	※ まち歩き	まちづくりフィールド ワーク実習①	まち歩きのコメントが入ったビデオを見て、まちの 読み取り方を学び、各グループでまち歩きを行う	
		29	※ まち歩き	まちづくりフィールド ワーク実習②	発表（グループ別でスマホ撮影したもの）とディス カッション	
		30	※ まち歩き	まちづくりフィールド ワーク実習③	提案グループ	修正版グループ

## (2) 具体的な取組

### 【2019 年度】

#### ○実施項目① 調査

実態調査：「まちづくりファシリテーター」に関連する講座の実態について、学校側・学生側の双方から情報を収集

a.建築学科を設置している専門学校対象調査（調査①）

b.専門学校の建築学科の学生対象調査（調査②）

c.企業対象調査（調査③）

事例調査：開発する教育プログラムに類似または合致する講座の事例収集(調査④)

#### ○実施項目② 開発

- ・評価基準の開発－調査の結果や先行事例の評価項目を参考に評価基準の開発
- ・カリキュラムの開発－調査結果や評価基準に則した、講座のカリキュラム開発
- ・教材開発

a.教材の基本設計：学習内容の構成や各項目のページ数、学習時間の配分等

b.教材開発（一部）：調査結果や先行事例を踏まえた教材の一部開発

c.手引書（一部）：地域などの事情を踏まえた運用、手引書の一部開発

#### ○実施項目③ 会議：年に3回程度以下の委員会を開催する。

- ・実施委員会（11月、1月、3月）
- ・分科会（11月、1月、3月）

### 【2020 年度】

#### ○実施項目① 開発

##### (1) シラバスの開発と多様なカリキュラムメニューの開発

初年度開発のカリキュラムを踏まえて、講座の概要や評価基準等を記したシラバスの開発着手。半期、1～2ヶ月短期集中カリキュラムメニューの開発着手。

##### (2) 教材本格開発

初年度開発の一部分の修正・改訂及び教育プログラムで活用する教材の本格開発

(テキスト教材、映像・Web教材・東京以外での実証講座の実施に向けた取り組み)

#### ○実施項目② 実証：教育プログラムの検証を目的とする実証講座の実施

実施場所：日本工学院専門学校（東京）

麻生建築&デザイン専門学校（福岡）

新潟工科専門学校（新潟）

計 3校

対象：建築学科生各校 15名から55名程度

計 約85名程度

期間：2か月から3ヶ月程度

実証を検証するための評価会実施 東京、福岡、新潟 3箇所で実施

#### ○実施項目③ 会議：年に4回程度以下の委員会を開催する。

- ・実施委員会（7月、9月、12月、2月）
- ・分科会（7月、9月、12月、2月）

### (3) 今年度の具体的活動

#### ○実施項目① 開発

##### (1) シラバスの開発と多様なカリキュラムメニュー開発

初年度開発のカリキュラムを踏まえて、講座の概要や評価基準等を記したシラバスの開発に着手すると共に、半期履修や1～2ヶ月の短期集中メニューを開発する。また、前年度の調査結果より時間・距離・人の条件に左右されず、今回想定されている各地域で行える運用方法を反映したものになるようブラッシュアップを行う。特に実践（まち歩き、事例見学、合意形成WS、演習）をどのように行うか？また、実践を通じてどのように、必要とされる素（Attitude+知識・技術）を形成するか？について検討し、実証につなげていく。

##### (2) 教材本格開発

初年度開発の一部分の修正・改訂及び教育プログラムで活用する教材の本格開発。さらに前年度調査結果より判明した、かく協力教育機関の持つ不安、時間・距離・人に左右されずに各地域で行える方法として映像教材のさらなる充実、Webでの実践の実施について教材開発をさらに進めることで次年度以降の講座の本格的実施に向けた現実的な教材開発を行っていく。

（テキスト教材、映像・Web教材

：東京以外での実証講座の実施に向けた取り組み）

#### ○実施項目② 実証： 教育プログラムの検証を目的とする実証講座の実施

－実施場所：日本工学院専門学校（東京）

麻生建築&デザイン専門学校（福岡）

新潟工科専門学校（新潟）

計 3校

－対象：建築学科生各校 15名から55名程度

計 85名程度

－期間：2か月から4ヶ月程度

－検証方法について

- ・実施校、実施学生に対する調査の実施
- ・事業実施員会、分科会における評価会の実施
- ・実証を検証するための評価会実施

東京、福岡、新潟の3箇所で実施予定。

実証講座に関して企業や行政の方を招いた評価会を実施することで検証を行う。

○実施項目③ 会議

今年度では事業を推進していくために「実施委員会」「分科会」を3回程度開催する。

	実施委員会	分科会
議題	事業計画の策定、事業方針の提示、活動内容の確認、活動成果の評価 等	開発：開発の本格化、前年度調査より実施に向けた映像教材、普及資料他の開発等 実証：協力教育機関での実証講座の実施、評価 等
開催数	令和2年度内に4度開催を予定（7月、9月、12月、2月）	

## 1-2-2 事業体制と委員会構成

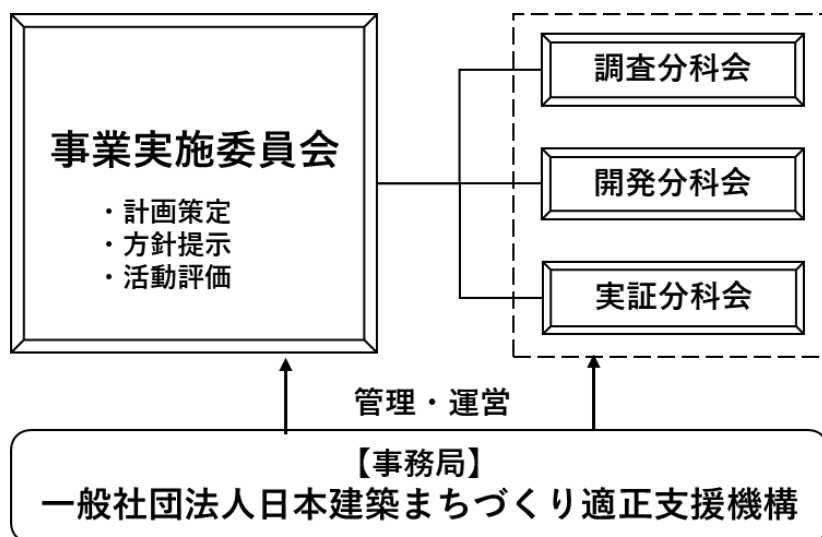
### (1) 事業体制のイメージ

まず、事業の推進にあたり、主体として「実施委員会」を設立する。実施委員会では、連携する行政機関や教育機関、業界企業・団体から構成され、本事業活動における計画の策定や方針の提示を行う。さらに、各事業の成果について評価を行い、必要に応じて方針修正や改訂内容を検討していく。

次に、実施委員会で議論された計画や方針を基本として、各事業活動の具体化および推進していく組織として「分科会」を設置する。分科会については、実施機関である当団体（一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構）をはじめとして、本事業連携機関における適任者および外部の協力者が参画し実作業を遂行する。分科会における活動成果については、事業実施委員会において評価を受け、必要に応じた修正等の管理を行う。

また、本事業全体の事務局機能は当団体が担う。具体的には連携機関等との事務連絡や実施委員会・分科会の準備、支出管理等を行う。

本事業における体制については下図のようなイメージで構築し、運用していく。



## (2) 構成機関等

### ①教育機関

- ・学校法人片柳学園日本工学院専門学校
- ・学校法人麻生塾麻生建築&デザイン専門学校
- ・学校法人国際総合学園新潟工科専門学校

### ②企業・団体

- ・NPO 法人日本住宅性能検査協会
- ・一般社団法人日本環境保健機構
- ・一般社団法人住宅建築コーディネーター協会
- ・一般社団法人不動産仲裁機構
- ・一般社団法人チームまちづくり
- ・株式会社アットカマタ
- ・特定非営利法人モクチン企画
- ・パナソニックホームズ株式会社
- ・大東建託株式会社

### ③行政機関

- ・東京都大田区
- ・福岡県福岡市
- ・新潟県

## (3) 各機関の役割・協力事項について

### ○教育機関

本事業で開発する講座内容について、専門教育を実施する主体として教育内容の構成や講座運営に対して助言や評価を行う。また、本事業における実証講座の運営や事業成果の導入支援等の活動を可能な限り担う。

### ○企業・団体

資格取得等の講座運営に知見のある企業には、本事業で開発する養成講座の効果的な実施方法に関する助言や評価を行う。また、まちづくりへの専門性を有する企業には講座内容への協力を担う。団体についてはまちづくりや建築について広範囲に知見を持つ立場から、本事業の実施内容への助言や評価を行う。また、事業実施後の成果に関する普及活動への協力も行う。

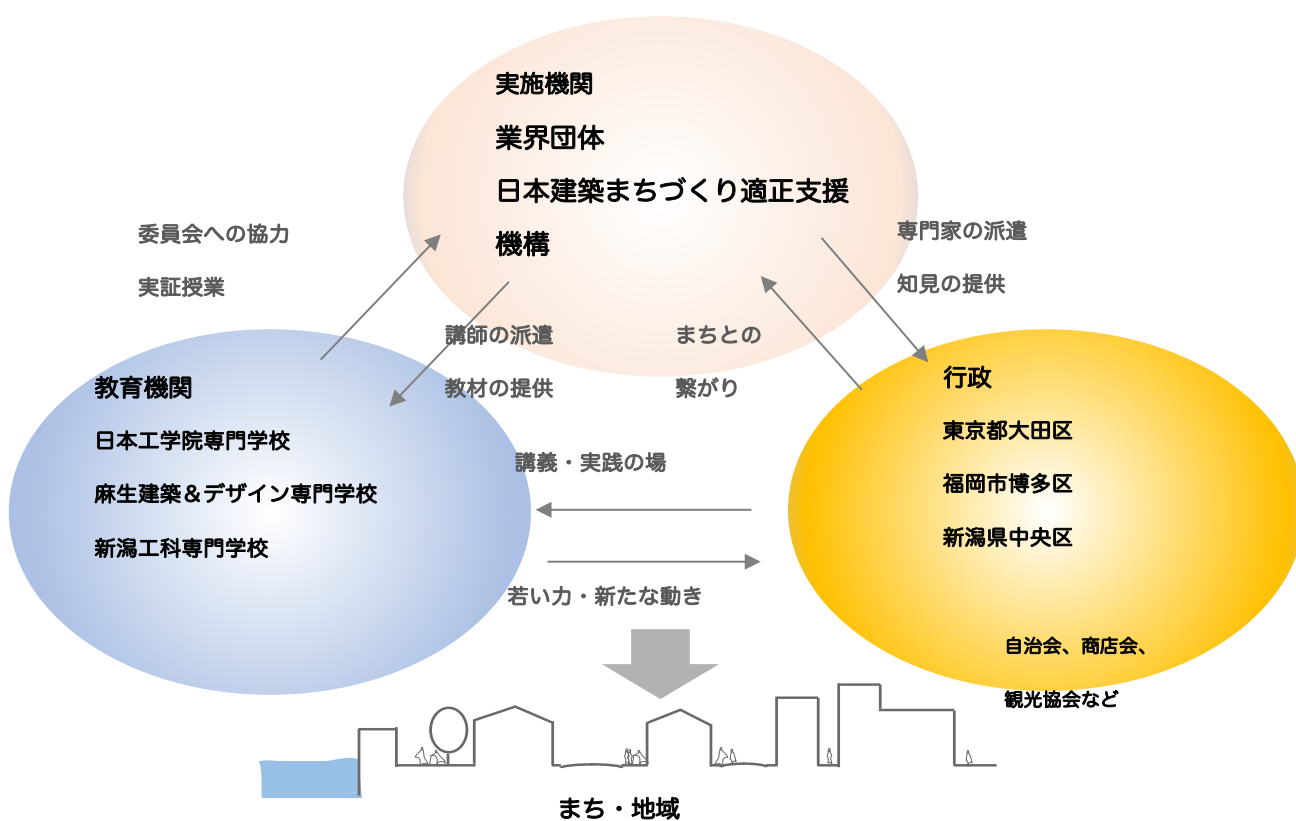
### ○行政機関

本事業で開発される成果を効果的に実施・運用していくために、当該地域に関する専門的な立場から助言等の協力をを行う。



#### (4) 効果普及想定地域

本事業における連携教育機関である専門学校（日本工学院専門学校・麻生建築&デザイン専門学校、新潟工科専門学校）の所在する地域・地区、具体的には東京都大田区、福岡市博多区、新潟市中央区を想定地域としている。東京は不燃化・耐震化といった都市型課題、福岡、新潟は中心市街地活性化など地方都市型課題、各教育機関で行われる実証講座、その後の実践によって地域は若い活力と新たな動きを獲得する効果普及が想定される。その際にまちづくり適正支援機構は専門家や講師の紹介などを通じてその動きの醸成を手助けすると共に、今後、まちづくりを行う良いスパイラルを手助けしていくことが考えられている。



(5) 事業を推進する上で設置する会議

会議名 ①	事業実施委員会		
目的・ 役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画策定</li> <li>・方針提示</li> <li>・活動評価</li> </ul>		
検討の 具体的 内容	<p>以下に示す通り、本事業活動における計画の策定や方針の提示を行う。さらに、各事業の成果について評価を行い、必要に応じて方針修正や改訂内容を検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養成すべき人材像や必要なスキルの明確化</li> <li>・事業計画の具体化</li> <li>・事業推進の活動方針やスケジュールの提案</li> <li>・事業推進の中間状況の確認</li> <li>・事業成果に対する評価</li> <li>・事業成果の展開に関する検討</li> </ul>		
委員数	10人	開催頻度	年 4回

事業実施委員会の構成員（委員）

	氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
1	連 健夫	日本建築まちづくり適正支援機構	委員長	○	東京
2	松村 哲志	日本工学院専門学校	副委員長	○	東京
3	山田 俊之	日本工学院専門学校	委員	○	東京
4	今泉 清太	麻生塾麻生建築&デザイ専門学校	委員	○	福岡
5	仁多見 透	国際総合学園新潟工科専門学校	委員	○	新潟
6	野澤 康	工学院大学	委員	○	東京
7	市古 太郎	東京都立大学	委員	○	東京
8	渡邊研司	東海大学	委員	○	東京
9	連 勇太郎	特定非営利法人モクチン企画	委員	○	東京
10	高橋寿太郎	創造系不動産	委員	○	東京

会議名 ②	開発分科会		
目的・ 役割	評価基準の開発、カリキュラムの開発、教材の開発		
検討の 具体的 内容	実施委員会にて検討された計画や方針にしたがい、以下について推進する。 ・評価基準の開発 ・カリキュラムの開発 ・テキスト教材、ビデオ教材の開発 ・手引書の作成 ・普及資料の作成		
委員数	9	人	開催頻度 年 4回

調査分科会の構成員（委員）

	氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
1	連 健夫	日本建築まちづくり適正支援機構	委員長	○	東京
2	松村 哲志	日本工学院専門学校	副委員長	○	東京
3	今泉 清太	麻生塾麻生建築&デザイ ン専門学校	委員	○	福岡
4	仁多見 透	国際総合学園新潟工科専門学校	委員	○	新潟
5	西川直子	建築ジャーナル	委員	○	東京
6	阿部俊彦	立命館大学	委員	○	京都
7	大槻一敬	大槻企画制作事務所	委員	○	東京
8	連洋助	連ヨウスケアトリエ	委員	○	東京
9	田中裕治	(株)リライト	委員	○	神奈川県

会議名 ③	実証分科会		
目的・ 役割	教材を用いた講義を実施し、その評価・検証を行う		
検討の 具体的 内容	<p>実施委員会にて検討された計画や方針にしたがい、以下について推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト教材を用いた講義を実施する。</li> <li>・ビデオ教材を用いた講義を実施する。</li> <li>・実施結果の評価、検証を行う。</li> <li>・検討、改善点の整理</li> </ul>		
委員数	9 人	開催頻度	年 4 回

開発分科会の構成員（委員）

	氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名
1	連 健夫	日本建築まちづくり適正支援機構	委員長	○	東京
2	松村 哲志	日本工学院専門学校	副委員長	○	東京
3	今泉 清太	麻生塾麻生建築&デザイ ン専門学校	委員	○	福岡
4	古賀俊光	麻生塾麻生建築&デザイ ン専門学校	委員	○	福岡
5	仁多見 透	国際総合学園新潟工科専門学校	委員	○	新潟
6	大倉宏	新潟まち遺産の会代表	委員	○	新潟
7	向田良文	デザインタック株式会社	委員	○	東京
8	里中勝哉	パナソニックホームズ株式会社	委員	○	大阪
9	鈴木大介	大東建託株式会社	委員	○	東京

(6) 開発に際して実施する実証講座の概要

実証講座の対象者	日本工学院専門学校 建築学科3年生
期間 (日数・コマ数)	2020年10月～2月までの間の5ヶ月間を想定
実施手法	<p>各教育機関の実情および必要となる問題点に合わせて、シラバスの中の実践を中心とした講義とのセット（3ヶ月程度の講座）を抽出し、協力教育機関と共同して行う。実施後、以下の3つの方法で検証を行う予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施校、実施学生に対する調査の実施 アンケートにより講座の満足度や改善点などについて評価を行う。</li> <li>・事業実施員会、分科会における評価会の実施 実証講座の実施状況の記録から意見、改善点などを出し、評価を行う。</li> <li>・実証を検証するための評価会実施 実証講座に関して企業などの方を招いて意見の聴取、改善点の抽出を行う</li> </ul>
想定される受講者数	55名程度

実証講座の対象者	麻生建築&デザイン専門学校 （学年混合有志による放課後講習）
期間 (日数・コマ数)	2020年10月～2月までの間の5ヶ月間を想定
実施手法	<p>各教育機関の実情および必要となる問題点に合わせて、シラバスの中の実践を中心とした講義とのセット（4ヶ月程度の講座）を抽出し、協力教育機関と共同して行う。実施後、以下の3つの方法で検証を行う予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施校、実施学生に対する調査の実施 アンケートにより講座の満足度や改善点などについて評価を行う。</li> <li>・事業実施員会、分科会における評価会の実施 実証講座の実施状況の記録から意見、改善点などを出し、評価を行う。</li> <li>・実証を検証するための評価会実施 実証講座に関して企業などの方を招いて意見の聴取、改善点の抽出を行う</li> </ul>
想定される受講者数	16名程度

実証講座 の対象者	新潟工科専門学校（専攻科1年生（3年生））
期 間 （日数・コマ数）	2020年10月～12月までの間の3ヶ月間を想定
実 施 手 法	<p>各教育機関の実情および必要となる問題点に合わせて、シラバスの中の実践を中心とした講義とのセット（2ヶ月程度の講座）を抽出し、協力教育機関と共同して行う。実施後、以下の3つの方法で検証を行う予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施校、実施学生に対する調査の実施 アンケートにより講座の満足度や改善点などについて評価を行う。</li> <li>・事業実施員会、分科会における評価会の実施 実証講座の実施状況の記録から意見、改善点などを出し、評価を行う。</li> <li>・実証を検証するための評価会実施 実証講座に関して企業などの方を招いて意見の聴取、改善点の抽出を行う</li> </ul>
想定される 受講者数	16名程度

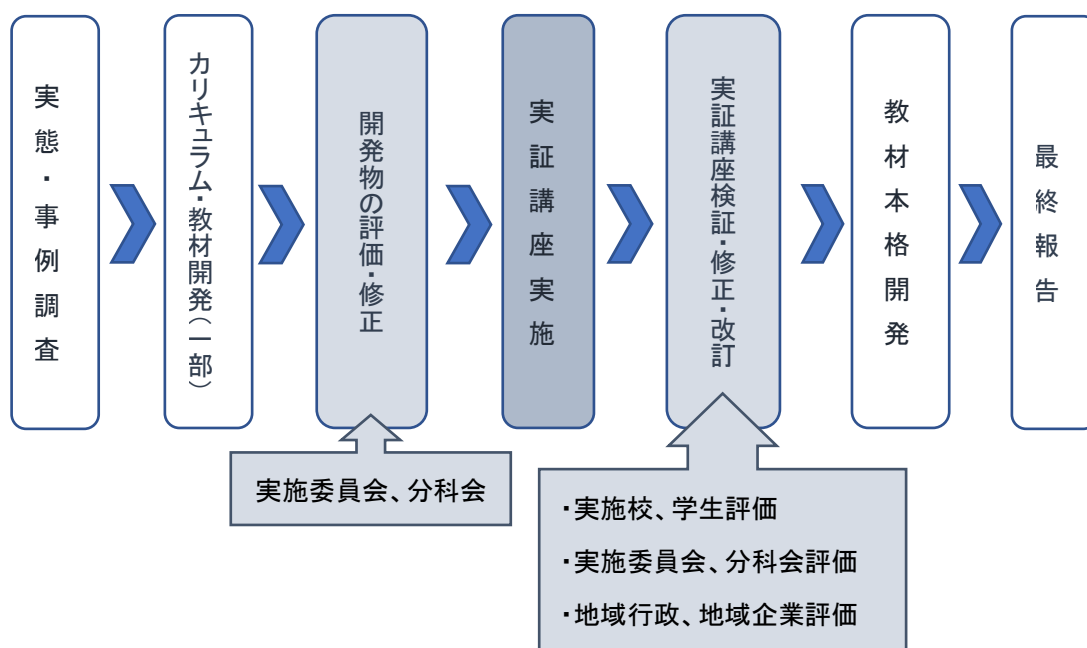
## (7) 開発する教育カリキュラム・プログラムの検証

### ○検証方法

初年度ではまず、現状の情報収集として実態・事例調査を行なう。調査結果から得られた知見を活用し、講座のカリキュラムや教材の開発に取り組む。初年度で開発を行う一部の教材を用いて、次年度にて実証講座を実施する。

実証講座では、開発した教育プログラムの有効性をはかるために初年度に開発する評価基準を採用する。また、学生側からの観点だけでなく実証講座担当講師側からの評価、行政やまちづくりの専門家、建築の専門家の意見も組み込む。その結果を本事業実施委員会および分科会で検証を行なう。

また、地域行政、地域企業にも可能な範囲で検証してもらおう。改善項目があれば、その都度対応することを想定する。様々な観点からの評価を通じて、教材の本格開発に取り組む。以下の図が検証の流れについてのイメージである。



(8) 事業実施に伴うアウトプット（成果物）

○最終的なアウトプット（成果物）

項目	概要
①実態・事例調査報告書	2019年度に実施する実態調査、事例調査それぞれの結果をまとめ、分析を行った報告書。
②評価基準	本事業で開発する教育プログラムで目標とする人材像が有する知識・スキルについて、学生が到達しているのかを評価する指標。
③カリキュラム・シラバス	合計45時間から構成されるカリキュラム。各科目の概要、使用教材、学習内容等を定めたシラバス。
④教材	まちづくりファシリテーターとして活動していくために「総合」「建築・デザイン」「都市計画」「合意形成・ワークショップ」「不動産・経営・税金」「修復・防災・エネルギー」の知識を整理したテキスト教材。
⑤実証講座報告書	2020年度に実施する実証講座の活動報告書。具体的には講座内容、実施時間、受講人数、実証結果等を表記する。
⑥成果報告書	各年度で実施した内容を記した報告書。

本事業における最終的なアウトプットは以下のとおりである。

○各年度のアウトプット

本事業は2019年度から2年間実施する。各年度のアウトプットは以下のとおりである。

	2019年度	2020年度
項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態調査報告書（2種類）</li> <li>・事例調査報告書</li> <li>・評価基準</li> <li>・カリキュラム</li> <li>・教材（一部）</li> <li>・2019年度成果報告書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス</li> <li>・多様なカリキュラムメニュー</li> <li>・実証講座報告書</li> <li>・教材（本格開発）</li> <li>・2020年度成果報告書</li> </ul>

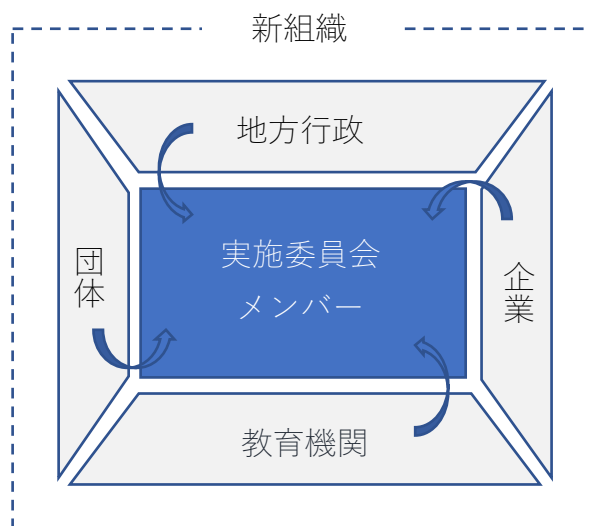


(9) 本事業終了後※の成果の活用方針・手法

○成果活用方針① 体制整備・本格導入 《2021年度～2022年度》

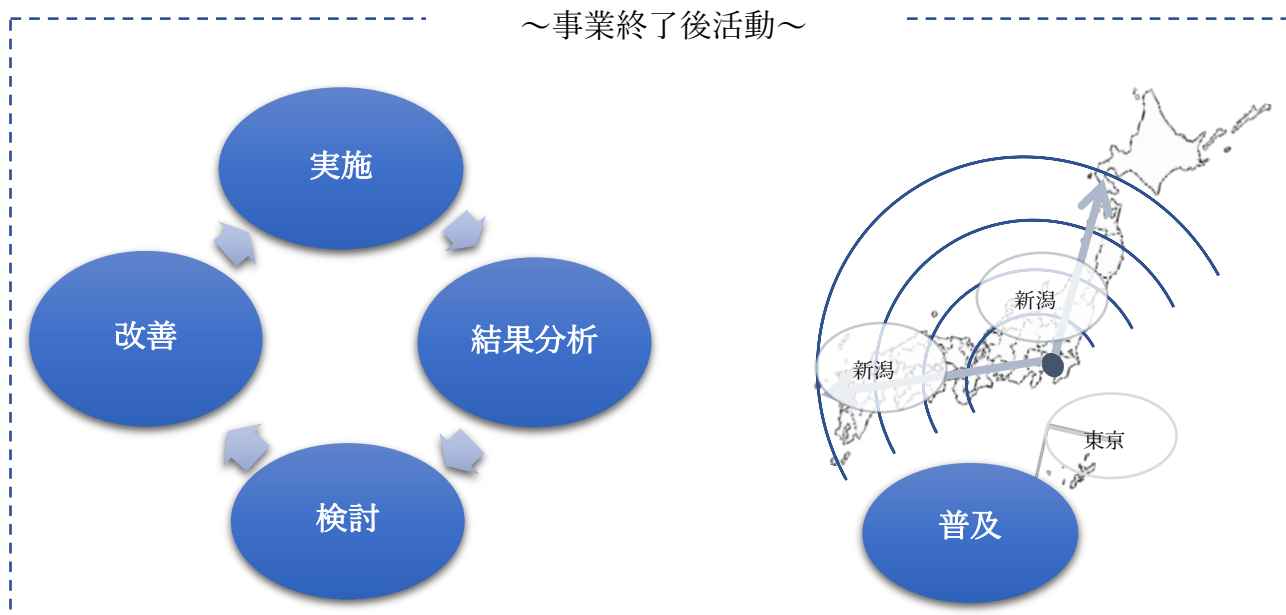
まず、2年間の本事業内で開発した教育プログラムの検討・改善等を行う組織が必要となる。そこで、本事業の実施委員会が中心となる新しい組織を設立する。当該組織が、本事業終了後の継続的な活動推進を管理・運営していく。

組織の発足後、本事業の成果物である教育プログラムの本格導入を推進していく。2021年度は、本事業の対象地域である東京都の専門学校にて実施するための準備を行ない、2022年度に講座を開設できるように取り組む。実施内容や結果については、検証を行ないながら必要なところは適宜改善していくこととする。



○成果活用方針② 普及活動 《2022年度～2023年度以降》

2022年度にかけて東京都にて実施する教育プログラムをもとに、2022年度以降実施校の増加とともに普及活動も行なっていく。具体的には、地方の中心都市（福岡や新潟、仙台等）に所在し、建築学科を設置する専門学校を想定する。実施結果を検証し、更なる普及を目指していく。



1-3  
実施委員会  
の開催実績

### 1-3-3 実施委員会の開催

○第一回合同委員会（実施委員会＋調査分科会＋実証分科会）／2020年7月22日

#### 【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第一回合同委員会（事業実施委員会、開発分科会、実証分科会） 議事録

○日時：2020年7月22日（水） 15:00～18:00

○場所：サメツミツワビル及びZoom会議

○出席者：下記アンダーラインはリアル出席者、それ以外はZoom出席者

□事業実施委員：連健夫、松村哲志、山田俊之、今泉清太、仁多見透、野澤康、市古太郎、渡邊研司、連勇太郎、高橋寿太郎

□開発分科会委員：連健夫、松村哲志、今泉清太、仁多見透、西川直子、阿部俊彦、大槻一敬、田中裕治、連洋助

□実証分科会委員：連健夫、松村哲志、今泉清太、古賀俊光、仁多見透、大倉宏、向田良文、里中勝哉、鈴木大介（代理：中村）、茨田禎之

□事務局：北村稔和、窪田伊吹、大原ひなた

□オブザーバー：藤田、櫻木（芝浦工業大学学生）

#### 0、委員紹介（自己紹介）

（山田）

コロナの影響により各教育機関の前期開始及び終了が約1か月遅れている。

（今泉）

コロナ対策としてオンライン授業の導入が行われている。

（仁多見）

新入生の実技に関する授業についてはやり方が難しく、検討中である。

（古賀）

麻生建築&デザインではサークル型の実証講義実施を考えている為、ある程度開催方法に自由度があると考えるので、試行錯誤しながら進めていきたい。

（中村）

企業についても会議はオンライン化、研修等についてもオンライン化が進んでいる。

（里中）

研修等はオンライン化が進んでいるが、まだまだ改善の余地がある為、本講座から取り入れられるものがあれば取り入れていきたい。

（野澤）

大学においてはオンライン授業を取り入れているが対面での実習について苦慮している部分がある。

#### 1、第一期、文科省報告書の内容確認（松村）

#### 2、今年度、事業概要説明（連）

（連）

- ・昨年度は専門学校・企業・行政に調査を行い、ファシリテーターの必要性が確認できたこと、求められている内容について報告を行った。
- ・今年度は引き続き教材開発・遠隔地実習方法の確立を行い、協力校3校にて実証講座の実施、検証をして結果を報告する。事業実施委員会が事業全体を、開発分科会がテキスト・カリキュラムの開発、実証分科会が実証講座の実施・検証を担当する。
- ・実証講座の開始は9月以降（後期）で考えている。

#### 3、建築学会梗概、報告（松村）

（松村）

「建築系まちづくりファシリテーター養成講座の実践に関する試み①②」を連、松村、野澤、市古、渡邊、阿部の6名連名で提出。

（市古）

- ・学生の意識として「将来に役立ちそう」「まちづくりに興味がある」
- ・学校調査より必要なスキルとして「コミュニケーションスキル」「法律知識」
- ・講義に必要なものとして「講義・実践」「合意形成のための手法」
- ・学生の興味のある講義内容として「都市計画」「リノベーション」
- ・調査の結果、現在の学生の意識の傾向が見えてきたのではないかと

（阿部）

まちづくりに興味があるという学術的知識欲と実際の就職等に役立つのではないかと  
いう実務への期待の両面が見える事は大きな可能性を秘めている。

（高橋）

本講座では不動産の実務に触れている部分も多い為、実務面での期待にも応えられる  
のではないかと。

（連勇太郎）

大田区での実でも若者がまちづくりに参加するケースが増えてきている。

#### 4、林奏義氏、ヒアリング報告（連、西川）

- ・2月19日に訪問ヒアリングを実施（参加者；連、西川、松村、渡邊、連勇太郎、宮地）

（西川）

ファシリテーターの源流とも言える林氏にヒアリングした事は非常に重要、今後「ファ  
シリテーター源流を訪ねて」という企画を行いたい。

## 5、テキスト関係、進捗状況、(委員)

(連)

学生により分かりやすくする為に各章の表題を変更している。  
委員会として、様々な意見を取り入れつつテキストを完成させていきたい。  
各委員からテキスト概要を報告、7月末までにファイナライズを行う予定。

(田中)

実際の空き家等の再生事例等を紹介する事で学生に具体的なイメージを持ってもらえる様にしたい。

## 6、シラバス、カリキュラム案(松村)

- With コロナにおける新たな学習スタイルを検討、実践する。
- 30コマ、15コマ、10コマそれぞれのコマ運用案を設け、選択できるようにした。
- 日本工学院3年生後期で30コマ、麻生建築&デザイン3年コース都市計画コースで10~15コマ、新潟工科3年生後期10コマの実証を想定している。
- 専門学校の地域特性を活かし横の繋がりも取り入れていきたい。
- 日本工学院は大田区との協業、麻生建築&デザインは博多駅周辺での自治体とのボランティア活動にも活かしていきたい。
- 動画コンテンツについてはテキスト執筆者に担当してもらおう。

(茨田)

動画コンテンツに関しては出来るだけ見やすくし、短くすべく分割したほうがよいのではないか。

## 7、テキスト用イラスト(連洋助)

(連洋助)

- 各章の扉絵とまちづくりファシリテーターとは何かを理解できる見開きイラストを作成。
- それぞれが一目でどのような内容が書かれているか分かりやすくする様にした

## 8、遠隔地におけるWEB利用/街歩きビデオ/動画授業P107版、等(松村)

- 福岡、新潟の街歩き映像を共有。

(大倉)

新潟の街歩きの担当をした。出来る限り歴史や現状の課題を紹介出来る様に心がけた。

(向田)

保存という観点からも新潟の動画は蒲田や福岡の事例とも異なり、魅力がある。

- 連担当のパワーポイントを利用した遠隔地講義映像事例を共有。

## 9、その他

□次回予定：9月17日 15時~18時半

○第二回開発分科会／2020年9月17日

【【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】】

第二回、開発分科会 議事議事録

○日時：2020年9月17日（木） 15:00～16:30  
○場所：サメズミツワビル 2階シェアオフィス共有スペース 及び Zoom 会議  
○出席者： 下記アンダーラインはリアル出席者、それ以外は Zoom 出席者

□開発分科会委員：連健夫、松村哲志、今泉清太、仁多見透、西川直子、阿部俊彦、  
大槻一敬、田中裕治、連洋助、

□事務局：北村稔和、窪田伊吹、大原ひなた

□オブザーバー：鈴木大介、中村直人

1、テキスト関係（1）：報告、最終確認 他（連）

- ・テキスト章立ての最終確認。

（今泉）

まちづくり全体についてどのような内容が効果的なのか実証講座を通じて考え、来年度以降に活かして行ければ良い。

（仁多見）

地域に合わせた教材に出来、全国の教育機関と一緒に学べるという可能性を秘めている。

（鈴木）

イラストが分かりやすく非常に良い。

2、テキスト関係（2）：テキスト用イラスト（連ヨウスケ）

- ・各章の扉絵の解説。

（西川）

視覚的にイメージで伝える事は非常に重要。まちづくりファシリテーターというものを絵で表現する事は難しいが、非常に高いレベルで出来上がっている。

（大槻）

子供から大人まで非常に見やすいものに仕上がっている。

（阿部）

学生に同じコンセプトの絵を描きなさいというのも面白い。

### 3、講義：実証検討、実証講座の進捗など（松村）

- ・想定している動画・実証カリキュラムの最終確認。

《田中》

- ・学生とのキャッチボールが重要なので、講義の後に実践やまとめが入ってるのは良い事だと思う。

（阿部）

班分けをして、各班がそれぞれ別々に実践を行うのか。←別々に行う。

（田中）

Google Classroom は誰が構築するのか。←JCCABE が行うが、各校のシステムと協働出来る様に打ち合わせする。

- ・反転授業は実務を担っている方々も受講したいと思う。
- 4 (EX)、実証講座に向けて、運用、方法（講義、実践、まとめ）、検証ほか  
（松村、各協力教育機関）
- ・実証講座の検証全体計画の説明

（今泉）

- ・学生の採点者は誰が行うのか。公平性の観点からある程度統一すべき。←現地校講師、連、松村で採点を行い按分化する予定

### 5、リーフレット（大槻）

- ・まちづくりファシリテーター養成講座のPR用に作成

### 6、その他（意見交換）

□次回開催日：11 月末—12 月初旬予定

15:00～16:30 実証分科会 16:40～18:30 合同委員会

○第二回合同委員会／2020年9月17日

【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第二回、合同委員会 議事録

○日時：2020年9月17日（木） 16:40～18:30  
○場所：サメズミツワビル 2階シェアオフィス共有スペース 及び Zoom 会議  
○出席者：下記アンダーラインはリアル出席者、それ以外は Zoom 出席者

□事業実施委員：連健夫、松村哲志、山田俊之、今泉清太、仁多見透、野澤康、市古太郎、連勇太郎、高橋寿太郎

□開発分科会委員：連健夫、松村哲志、今泉清太、仁多見透、阿部俊彦、西川直子、大槻一敬、田中裕治、連洋助

□実証分科会委員：連健夫、松村哲志、今泉清太、仁多見透、大倉宏、向田良文、鈴木大介、茨田禎之

□執筆者（オブザーバー）：三井所清典、湯浅剛、中村直人

□事務局：北村稔和、窪田伊吹、大原ひなた

○欠席者：渡邊研司、里中勝哉、古賀俊光

(0)、委員紹介（初めての方、司会より紹介のあと一言）

1、前回議事録の報告（北村）

- ・7月22日の議事録を紹介。

2、テキスト関係（1）：報告、最終確認 他（連、執筆者）

- ・連より全体概要及び進捗の説明。9月末までに暫定テキストを作成する。
- ・執筆者である三位所氏、湯浅氏、向田氏、高橋氏から執筆概要紹介。

3、テキスト関係（2）：テキスト用イラスト（連ヨウスケ）

- ・各章の扉絵の解説。

4、講義：実証検討の進捗、実証講座に向けて、運用、方法（講義、実践、まとめ）  
ほか（松村、各協力教育機関）

- ・10コマ、15コマ、30コマそれぞれの開催日程検討進捗状況、及び合同開催等の可能性について各協力校と連携を取りながら進める事を共有。

5、実証講座検証について（松村）

- ・実証講座の進め方、反転授業の手法について。遠隔地実証における開催要項、講師がすべきこと等を提案。アンケート案についても共有。
- ・実証最終日には学生による発表会を開催予定。それに対して委員による評価を入れたい。



## 6、リーフレット（大槻）

- ・まちづくりファシリテーターが開講される事を明示可能なツールを作成する。

（大倉）

作成されたツールを大学等専門学校以外においても良いのではないか。

（西川）

建築ジャーナルにおいても本内容は取り上げたいと思っている。

## 7、その他（意見交換）

（連勇太郎）

反転授業は非常に優れた手法となるが、ディスカッション時には講師は現地にいるのか。

（松村）

今年度は現地講師及び JCAABE による対応となるが、将来的にはこの手法を全国に拡大させていきたい。その中で講座担当講師や執筆者に参加してもらいたいという声も上がると考えている。

（野澤）

受講後学生アンケートに『他の人に本講座を薦めたいか』を追加した方が良い。

（市古）

リーフレットに就職の出口に関する記述をもう少し書いても良いかと思う。

（高橋）

来年度の進め方は考えているのか。

（連）

今年度の実証結果を踏まえて、検討していく事になる。

（今泉）

養成講座受講後のメリットがどうなるのかが気になっている。

（松村）

企業との打ち合わせも含め、具体的に PR して行きたいと考えている。

（仁多見）

受講後アンケートに『満足度が低かった人』に関する深堀りも必要なのではないか。  
講座数が適当なのかどうかも意見を確認すべき。

（鈴村）

発表会に対しては地元の方にも参加して頂く事でよりまちづくりファシリテーターの浸透が見込めるのではないか。

(山田)

地域、教育、行政の繋がりが生まれる事も非常に重要。

(茨田)

まちづくりファシリテーターが仕事として具体的に繋がっていくのかという事例を早く作っていきたい。

(向田)

実証講座を行い、次に発展させるという方針があると思う。今回も様々な専門家が参加しているが、参加者がまちづくりの中で更に繋がって行くという考えがあるのか、またそうなる事を期待している。

(阿部)

コロナ禍において、このような遠隔で専門家と学生をリアルタイムに繋げていく事が当たり前になってくる。講師や執筆者が少しの時間でも講座に参加したり、フィードバックする事も重要かと思う。

## 8、事務局より（北村）

- 次回開催日：11月末—12月初旬予定  
15:00~16:30 実証分科会 16:40~18:30 合同委員会

○第三回実証分科会／2020年12月12日

【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第三回、実証分科会 議事録

○日時：2020年12月10日（木） 15:00～16:30  
○場所：連健夫建築研究所 ミーティングスペース 及び Zoom 会議  
○出席者：下記アンダーラインはリアル出席者、それ以外は Zoom 出席者

□実証分科会委員：連健夫、松村哲志、今泉清太、古賀俊光、仁多見透、向田良文、鈴木大介

□事務局：北村稔和、窪田伊吹

○欠席者：大倉宏、茨田禎之、里中勝哉

1、実証講座について：進捗、状況説明ほか（松村）

・状況説明、報告

①各校での実証講座実施進捗状況

（今泉）

麻生建築&デザイン専門学校では反転授業を実施。先に動画を見せるという手法は新鮮で学生も楽しみながら取り組んでいた様に思う。

②具体的な講義実施について

麻生建築&デザイン専門学校・・・建築サークルでの実施

反転授業は勉強を行うきっかけを増やす機会にもなっている

（古賀）

本年度はカリキュラムの都合上、サークルという形での実施となったが、異なる開催

方法も検討したい。

③具体的な実践実施について

新潟市『OTONARI』改修プロジェクト見学動画

荻窪家族プロジェクト見学動画

学生のディスカッション、発表動画の確認

（仁多見）

新潟工科専門学校×日本工学院専門学校との共同授業を学生も楽しんでいた  
時間内で収めるということも学べたのではないかと

- 最終、まとめ課題 「まちづくりフィールドワーク実習」について  
新潟工科専門学校の実施について  
街中から『たから』と『あら』を探すフィールドワーク  
講師からフィールドワークの発表内容について中間フィードバックを受け、  
発表会までブラッシュアップを行う

【新潟工科専門学校 発表会】 on zoom

2020年12月11日(金) 14:30-16:10

【日本工学院専門学校・麻生建築&デザイン専門学校 合同発表会】 on zoom

2021年2月5日(金) 13:00-16:10

(鈴木)

企業としても優秀な生徒の発表を聞く事が刺激に繋がるのではないかと考えている。

(向田)

地域のまちづくりに関わっている方や行政の方も呼んでも良いのではないかと考えている。

## 2、検証について：検証内容ほか（松村）

- 検証内容の確認

### ①前提として検証のポイント

人材育成・素養・方法

### ②調査・検証方法

評価会・意見聴取・学生対象アンケート・教員対象アンケート

- アンケート等調査内容の詳細

○第三回合同委員会／2020年12月10日

【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第三回、合同委員会 議事録

○日時：2020年12月10日（木） 16:40～18:30  
○場所：連健夫建築研究所 ミーティングスペース 及び Zoom 会議  
○出席者：下記アンダーラインはリアル出席者、それ以外は Zoom 出席者

□事業実施委員：連健夫、松村哲志、山田俊之、今泉清太、仁多見透、高橋寿太郎  
□開発分科会委員：連健夫、松村哲志、今泉清太、仁多見透、西川直子、阿部俊彦、  
田中裕治、連洋助  
□実証分科会委員：連健夫、松村哲志、今泉清太、古賀俊光、仁多見透、向田良文、  
里中勝哉、鈴木大介、茨田禎之

□事務局：北村稔和、窪田伊吹

○欠席者：大倉宏、渡邊研司、野澤康、市古太郎、連勇太郎、大槻一敬

1、前回議事録の報告（北村）

2、テキスト関係（1）：進捗の報告 他（連）

- ・テキスト完成、配布済

3、テキスト関係（2）：扉絵・イラストの説明（連ヨウスケ）

- ・最終版の確認

4、実証講座について：進捗、状況説明ほか（松村）

- ・状況説明、報告

（今泉）

反転授業の有効性について再認識した。

（古賀）

動画教材を豊富に用意できている為、コマ割りの自由度が高いと実感している。

- ・最終、まとめ課題 「まちづくりフィールドワーク実習」について

【新潟工科専門学校 発表会】on zoom

2020年12月11日（金） 14:30-16:10

（仁多見）

日程的に今回は単体での実施となるが、今後は合同発表会も実施して行きたいと考えている。

【日本工学院専門学校・麻生建築&デザイン専門学校 合同発表会】 on zoom  
2021年 2月 5日(金) 13:00-16:10

(山田)

大田区役所の担当の方にも参加して頂ける様要請している。是非多くの皆さんに聞いて頂きたいので委員の方にも参加して頂きたい。

(向田)

学生にとって自分達の発表を外部の専門家や既にキャリアを積んでいる人に聞いてもらえるという事は非常に大きなチャンスと思う。

- ・実証分科会での意見について

(里中)

課題発表に企業が参加する事で学生にとっては就職活動の参考になる可能性がある。

(田中)

課題発表を企業や行政が実際の形にしていく事が産官学の連携に繋がると思う。  
是非検討して欲しい。

#### 5、検証について：検証内容ほか（松村）

- ・検証内容、実施状況、アンケート等調査内容の報告

- ・実証分科会での意見について

(阿部)

発表成果物について提出、保管、共有、今後のまちづくりへの活用等について考える必要がある

(西川)

発表内容について学生間の講評等はあるのか。

(松村)

動画投稿に対して学生間のコメントを推奨したいと考えている。発表成果物に関しても考えてみたい

(茨田)

講師自体が教えるという考え方ではなく、一緒に生み出していくという考え方で進めて行くのが良いのではないか。

(高橋)

コロナ禍の中で工夫して実施されていると思う。今後コロナが終息に向かった後にど

これまで今までのやり方と融合させられるかが重要になると思う。

## 6、その他

(鈴村)

オンラインインターンシップを計画している。是非学生の皆さんにもご参加頂ければと思っている。

## 7、事務局より(北村)

□次回開催日：2月初旬予定(2/8、15)

15:00~16:30 実証分科会 16:40~18:30 合同委員会

○第四回実証委員会/2021年2月15日

○第四回実証分科会／2021年2月15日

【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第四回、実証分科会 議事次第

○日時 : 2021年2月15日(月) 15:00~16:30  
○場所 : 連健夫建築研究所 ミーティングスペース 及び Zoom 会議  
○出席者 : 下記アンダーラインはリアル出席者、それ以外は Zoom 出席者

□実証分科会委員 : 連健夫、松村哲志、今泉清太、古賀俊光、仁多見透、向田良文、  
鈴村大介(代理:中村)

□事務局 : 北村稔和、窪田伊吹

○欠席者 : 里中勝哉、大倉宏、茨田禎之

1、実証講座について : 実施完了報告、説明ほか(松村)

・実施報告、説明

(松村)

WEB とリアルの融合を目指して、全ての人々が WEB で繋がる講座を実施出来た。  
司会-講師-学生。ZOOM、グーグルスライド、スマートフォンを活用。

司会、講師は WEB で学生は現地でグループワークを行う等の方法も実施。

まとめ課題「まち歩きフィールドワーク演習」を各校で3コマ実施。  
街の“たから”と“あら”を動画撮影。発表事例を紹介。

(向田)

全て WEB に行ったという状況だったかと思うが、想定以上にスムーズだった。  
こういうやり方もあるんだという可能性を感じた。

(仁多見)

グループ作業もうまく行ったと思っている。画像を見ながら指導を受ける事はどう  
かなと思ったが、学生達も上手にワークが出来た。システム障害もあまりなかった。

(古賀)

自分達が運営に慣れていないという事もあり、状況作りに少し苦労したが、福岡の学  
生も遠くの先生方のお話を伺え、良い刺激になった。

2、検証について : 検証内容ほか(松村)

・検証報告 1 学生アンケート

(松村)

受講前、受講後にアンケートを取得。

基本的に満足を示す内容だが、施工管理を目指す学生等からの一部の不満について  
は検討要。



必要とされるスキル等についての考えが一部変わってる点（設計力等）には注目。

・検証報告 2 検証委員アンケート

(松村)

まとめ課題発表会への参加時にアンケートを実施。

人材育成及びWEBによる実施については皆様より肯定的な意見を頂いた。

(今泉)

学生が積極的に自分で考えて実施し、楽しかったという部分に尽きるかと思います。

15人の生徒が参加したが、良かった。

(中村)

WEBという環境下で学生の皆さんが非常に頑張っていたと思う。

アンケートを見ても楽しかったという声が多いのを見ても非常に成功したのではないか。

(仁多見)

実証講座を行う前と後の違いで変化があったという事が達成感や講座を実施をした意味に繋がっていると思う。フィールドワークについては街歩きを行い、自分達で問題点を見つけ、生のものを見て改善していく事の面白さが学生達にはあったと思う。

(向田)

不燃化の部分の比率がやる前とやった後で下がっているのは自分のパートのみかと思うが、様々な内容を知る事の必要性を分かった結果ではないか。WEB開催の可能性や工夫の仕方をより研究する事でもっと良くなっていくのではないか。

地域住民が講座に関わっていないという部分について制約はあるかと思うが、取り入れられたら良いと思う。

(古賀)

最初彼らが期待していた事は資格や認定される事だったが、講座を続ける内に楽しさが増していったのは、その日の内に成果が出るという事がやりがいに繋がったのではないかと思う。一度実施すれば現場の準備等も問題ないので、一度経験する事が重要。

### 3、意見交換

(連)

アンケート受講前と受講後の内容が変わった事が非常に大きい。

将来希望している進路と回答内容の相関を見ていく事も面白い。

(古賀)

授業を休んだ学生についても周りの学生が前回どのような事をやったかを伝えて、今回の授業に入りやすくしていた。

(松村)

コミュニケーション関連の授業についての意識が高かったように思う。

(仁多見)

グループワーク等が関係する授業についてはコミュニケーション能力や役割の明確化が必要になるし、それが面白かったしやりがいがあったのではないかと。普通の授業で発表する機会があまりないので、これを経験する事で就職先でも役に立つと思う。

(今泉)

一方通行ではなく相互コミュニケーションが評価されている。

(連)

今後本講座を人に勧めたいかという質問の自由記述でも人と人を繋ぐという点を理由に挙げていた。

(中村)

WEB 授業については懐疑的だったが、発表を見て対面で行ったかと思うほどの出来であった。

弊社の新卒研修等への取り入れも検討していきたい。

(仁多見)

新潟-東京-福岡合同で学生同士で繋がれた事については非常に良かったと思う。自学以外の学生と繋がる機会は皆無の中、繋がる事で柔軟なコミュニケーションスキルが身に付いたのではないかと。

(今泉)

コロナ禍の中で遠隔で行う事で、遠隔地と繋がる事の可能性を見た。合同発表会についても福岡と蒲田を身近に感じる事が出来、今後も実施していきたい。

(連)

地域住民の参加も一つではあるが、大学生や社会人の参加も認める事で経験や多様性を感じてもらえるのではないかと。

○第四回合同委員会／2021年2月15日

【文科省事業、まちづくりファシリテーター養成講座】

第四回、合同委員会 議事録

○日時 : 2021年2月15日(月) 16:40~18:30  
○場所 : 連健夫建築研究所 ミーティングスペース 及び Zoom 会議  
○出席者 : 下記アンダーラインはリアル出席者、それ以外は Zoom 出席者

□事業実施委員 : 連健夫、松村哲志、山田俊之、今泉清太、仁多見透、市古太郎  
連勇太郎

□開発分科会委員 : 連健夫、松村哲志、今泉清太、仁多見透、西川直子、阿部俊彦、  
田中裕治、連洋助

□実証分科会委員 : 連健夫、松村哲志、今泉清太、古賀俊光、仁多見透、向田良文、  
鈴木大介(代理:中村)

□事務局 : 北村稔和、窪田伊吹、大原ひなた

○欠席者 : 野澤康、渡邊研司、高橋寿太郎、大槻一敬、大倉宏、里中勝哉、茨田禎之

1、前回議事録の報告(北村)

2、実証講座について : 実施完了報告、説明ほか(松村)

- ・実施報告、説明

(松村)

講義動画について委員の皆様のご協力を頂き、学生の為にまちづくりファシリテーションを網羅したものが完成した。改めて御礼申し上げます。

(古賀)

学生は講義を動画で見るのは初めてだったが、聞き逃した部分を繰り返し見る事が出来る等、非常に魅力的なコンテンツだった。

(阿部)

オンライン授業の重要性は非常に高くなっているが、上手くいかない事もある。今回は非常に上手く出来ていたので今後も色々な場所で使っていきたい。

(市古)

ブレインストーミングをオンライン上で行ったらという事を行ったが、短い時間で色々な意見を出してもらった。もう一つはあなたが考える避難所デザインという授業を行ったが自分自身新たな発見があった。

いかに災害イメージネーションを高めるか、避難所生活をイメージできるか。今までは

対面型で行っていたがWEB上でも可能である事が実感できた。

(田中)

学生間の話し合い結果はまとまっていたと思うが自身としては時間が足りなかったという反省点がある。習熟していけばより良いものが出来ると思う。

(仁多見)

2020年12月11日の発表会に向け学生達には一生懸命取り組んでもらった。様々な意見をもらったので、コマ数等を取り切れなかった部分も含めて来年度以降の参考にしたいと思っている。

3、検証について：検証内容ほか（松村）

・検証報告 1 学生アンケート

・検証報告 2 検証委員アンケート

・実証分科会からの意見の報告  
議事録参照の事。

・次第2、3について意見交換

(阿部)

実施前と実施後で非常に分かりやすい結果が出たと感じている。  
オンラインで合意形成やワークショップ等の実践感覚を教える事は無理だと思っていたが、やり方次第で効果が出ると実感出来た。更に理解を深める為にどうすれば良いかを考える必要がある。地元の方でオンラインに対応出来ない方々に発表内容を共有する事が出来れば学びの度合いがUPするのではないかと。地域のまちづくりを行っている方やまちづくりのコンサルタント等実務者を入れる事も可能性がある。

(市古)

学生に加えて社会人、地域のステークホルダーを加えてオンラインで行っていく事には全くの同感を持っている。学生はコミュニケーションスキルが必要だと口々に言うが、自己のデザインを相手に伝える事もそうだが、現場で求められている事はロールプレイングといった、相手の立場や感情を想像して言語化して深まっていくコミュニケーションに気が付いたのではないかと。参加はしていないが様々なニーズ（想い）を持っている色々な立場の方の事を自分の方に引き付けて、想像して、言語化する事の重要性を学生が認識しているのではないかとアンケートから読み取れた。

(山田)

対面型の発表会よりも今まで引込み思案気味だった学生も喋っていた。  
コミュニケーション学というものが今後確実に必要になる。それは就職という面からも専門性以上に重要なのではないかと。そういったものも本講座に導入していけばどうか。

(中村)

自分自身面接を行っていますが、人間力・コミュニケーション能力は非常に重要となる。他部署や色々な年代の社員と協業していく必要がある。それにも本講座は非常に有効であると考えている。

#### 4、今年度のまとめについて（松村）

(西川)

都立大学で谷中をテーマにした課題が行われ、それを zoom で繋いで住民に発表を行った事例があります。こういった可能性もあるということでご紹介します。

(連洋助)

人とコミュニケーションを取る際にどの様な媒体（ツール）を使って取るのかが大事だと考えている。学生がどの様な人とどの様な媒体を使ってコミュニケーションを取っているかを意識して、客観的に捉えられるかが重要となる。

(勇太郎)

まちづくりを進める上で、ハルプリンの手法があるが、身体的なジェスチャーを使って相手とのコミュニケーションを進める事が重要とされている。このようなオンラインの形式でも身体を使ったワーク等もする事も大事ななと思う。舞踊等のワークショップをオンラインで行っている方々等に聞いてみるのも良いのではないか。

(仁多見)

まち歩きを学生と一緒に行ったが、普段は気付かないいつものまちに“たから”や“あら”が見つかり、それを撮影し、学校に戻ってそれを建築的にどう解決するかを皆で考える事で非常に楽しそうに行っていた。教師としてはあまり意見を押し付ける事なく、少しヒントを出し誘導する程度にして学生の気づきを促した。

(古賀)

Cプラン（学生が現地とWEB参加の両方）が一番難しかった。画像及び音ズレについては現地の状況を整える必要があるかと思っています。

(向田)

まとめ課題の発表の多様性は感じたが、その提案をそのまちでどの様に活かして行くのか、持続可能性部分については見えていなかったと思った。

(連)

大田区の方からも雑談で発表内容を実際にやっても面白いなあという意見があった。行政の方に参加していただくのも良い事だと思う。

(山田)

大田区の方とは今まで口頭ベースで一緒にやりたいと話していたが、来週卒業制作で危機管理室長に話を聞いてもらえるようになっている。今後もそういうやり取りを続けて行きたいと思う。

(田中)

実際の空き家を今後どうしていくんだという事を今後講義で話合っていくと一般の方と話を進めていくという事も出てくるのかなと思う。

5、その他

6、事務局より（北村）



本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、《一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構》が実施した令和2年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

令和2年度文部科学省  
「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」  
「まちづくりファシリテーター養成講座」  
地域課題解決実践カリキュラムの開発・実証  
事業概要報告書

2021年（令和3年）2月

一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構  
<https://jcaabe.org>



